

## 男性特有のがん

男性特有のがんとして挙げられる、前立腺がん。  
早期発見・治療すれば約9割の人が治る病気です。

### 「前立腺がん」とは

「前立腺」とは、男性のみにある臓器です。膀胱の下に位置し、尿道の周りを取り囲み、精液の一部に含まれる前立腺液をつくっています。

前立腺がんは、50歳代から徐々に増え始め、60歳代から急増して高齢になるほど増加の傾向にあります。男性の部位別がんの罹患数としては近年、急速に増加してきており、現在では第1位となっています。しかし、比較的ゆっくり進行し、早期発見・治療すれば多くの人が治るがんです。

### どのようにチェックすればよいの？

前立腺がんは、罹患しても早期の場合、自覚症状が表れることはほぼありませんが、「尿が出にくい、排尿の回数が多い」などの症状が出ることもあります。さらに症状が進行すると、これらの排尿の症状に加えて、血尿や、腰痛など骨への転移による痛みが見られることがあります。

主な検査としてはPSA検査、直腸診があり、これらの検査で前立腺がんが疑われる場合には、経直腸エコー、前立腺生検などを行います。PSA検査は、前立腺液に含まれるたんぱく質「PSA」の血液中の値を測ります。ほとんどのPSAは前立腺から精液中に分泌されますが、がんや炎症により前立腺組織が壊れると、PSAが血液中に漏れ出して増加するため、前立腺がんを早期発見するための最も有用な検査とされています。

### 「前立腺肥大症」との違いは？

前立腺において、よく見られる疾患として「前立腺肥大症」がありますが、これは前立腺の細胞数が増加することで肥大する良性の疾患です。

年齢とともに多くなり、尿道を圧迫するため、「尿が出にくい、尿の切れが悪い、排尿後すっきりしない、夜間にトイレに行く回数が多い、我慢ができずに尿を漏らしてしまう」などの前立腺がんと似ている排尿の症状があります（前立腺がんと同時に起こることもあります）。これらの自覚症状がある場合は、前立腺がんの可能性もあるため、早めに泌尿器科を受診しましょう。

#### <参考資料>

- ・国立研究開発法人国立がん研究センターがん情報サービス「前立腺がん」
- ・国立研究開発法人国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」5年相対生存率（2009～2011年）、部位別罹患数（2019）、年齢階級別罹患数（2019）、罹患数年次推移（2019）